



美瑛町立美瑛中学校
学校だより
令和3年9月号

コロナ禍のアンケート

校長 鈴木 薫

先月号で、9月18日予定の文化祭の実施祈願をしましたが、ご承知の通り、新型コロナウイルス感染者増による緊急事態宣言の発令で10月9日に延期としました。体育祭に続き文化祭も延期となってしまいました。ただ、たとえ延期してでも、工夫して当初の予定通り実施し、子どもたちに良い思い出を作りたいと考えています。

さて、私は、上川管内の教職員全員が所属している「上川管内教育研究会」の代表をしています。今年度、コロナ禍における各家庭の状況把握を目的に、管内すべての保護者対象にアンケートを実施しました。その結果の一部をご紹介します。結果は管内全体のもので、美瑛町もほぼ同じ結果です。

- 子どもの登校に不安がある、少し不安がある割合は70%
- 子どものストレスが増えている、少し増えている割合は79%
- 保護者のストレスが増えている、少し増えている割合は86%
- 子どもが遊ぶ場所は、家庭で遊ぶ時間が増えた割合が61%、外で遊ぶ時間が増えた割合が7%
- 子どもがゲームやメディアに触れる時間が増えた割合が72%
- 外出を自粛している家庭の割合は84%

このアンケートは7月に実施したものです。デルタ株が主流となり、子どもへの感染が増えていることから、登校への不安はもう少し増しているかもしれません。また、緊急事態宣言下で部活動も中止、文化祭の期日も変更と、子どもたちのストレスも増えているかもしれません。そして、外出の自粛、家族の感染の心配、お仕事等での様々な不安等、保護者は子ども以上にストレスを抱えていることもわかりました。それから、今後の学校教育への不安で一番多かったのは学校行事で、次が学習でした。様々な行事が変更、縮小、あるいは中止という流れにあって、修学旅行や学芸会・運動会などの大きな行事が行えるのだろうかという不安が学習の不安より多いという結果となりました。

学校も、今回の緊急事態宣言を受け、部活の中止、全校で集まる集会等の中止、向き合っの活動や放課後の活動を今まで以上に制限、毎日の消毒、消毒液の設置場所の増加など、今まで以上の感染対策を講じています。何度も修正や変更を余儀なくされ

る行事、いつも以上に子どもの変化に気を配るなど、終わりの見えない対応に学校も多くのストレスを抱えています。「明けない夜はない」と言います。早く夜明けが見たいものです。

このような中、学校での子どもたちは、様々な状況の変化に動揺したり不満をもちすることもなく、普段と変わらず淡々と毎日を送っているように見えます。今は、子どもたちの元気な姿と笑顔が唯一の救いです。

コロナ禍での取組

【↓体育館で距離をとった合唱練習】

9月30日までの緊急事態宣言下、本校では美瑛中版生活様式「学校生活で気をつけること」を見直し、「1m以上」「15分以内」など、今までよりもレベルアップした感染防止対策に取り組んできました。全道的には、感染者数が減少傾向にありますが、学校や部活での感染、クラスターが多く報じられている中、対策に手を緩めず、確実に取り組んでいきたいと考えております。



情報モラル教室を行いました



8月31日に、情報モラル教室が開催されました。緊急事態宣言下の今年度は、各教室でZOOMをつないでの開催となりました。

講話や過去の事例を聞いたり、事前に配付されたカードで自分の考えを表したり、代表生徒がカメラを通して講師の方に意見を述べたりするなど、ZOOMの機能をいかした実のある時間となりました。

全国的には中高生がインターネット上で加害者になったり、被害者になったりする事例が多発しています。情報モラルを意識した、安全なインターネット使用を願っています。

1人1台端末の活用

本校では、1人1台端末「chromebook」で資料の提示、意見の集約や交流、プレゼンテーション資料の作成、アンケートの実施など、日常的に活用しています。端末を使用することにより、授業の充実化や効率化につながり、今ではなくてはならない存在です。



裏面に「全員担任制」「到達度テスト」について掲載しています。

【全員担任制・到達度テストについて】

美瑛中学校では、ここ数年、他の学校があまりやっていないような特色ある取組を行っています。たとえば、子どもたちが自分で時間を管理できるようにノーチャイムにしました。文化祭や体育祭などの行事も、どんな内容や競技にするかを実行委員会や係を作って話し合い、生徒会を中心に生徒が進めています。ジャージや制服の改定も、生徒会を中心に取り組みました。これからは自分で考えたり、仲間と一緒に良い方法を考えたり、解決したりする力が求められているからです。

また、これまで家庭学習の時間が少ないことや学習に向かう意欲を育てるために中学校では当たり前とされていた中間・期末テストをやめて、教科書のまとめり（教材とか単元と言う）ごとに細かくテストを行うこととしました。本校ではそれを到達度テストと言っています。

さらに、これまでは学級ごとに担任、そして副担任という差のつけた制度が当たり前でしたが、それも、全員が同等の担任とする全員担任制を1年生で導入しました。

今回はその到達度テストと全員担任制について少し詳しく説明します。

【到達度テスト】

1. これまでの中間・期末テストの課題

- ・範囲が長く、復習が大変だった。範囲が長いことで、やる気をなくす生徒もいた。
- ・学期に1度か2度のテストで成績が大きく左右された。
- ・中間・期末テストの直前にしか家庭学習をしない生徒が多かった。

→これらの課題を解決する手立てとして到達度テストを導入しました。

2. 到達度テストの利点

- ・範囲が短いので、何を学習すれば良いか分かりやすい。テストの成果が出やすい。
- ・成果が出ることで、学習意欲が向上し、授業も分かる生徒が増える。
- ・小さなテストを数多く実施することになるので、それに向けた学習を行うことは毎日の家庭学習の定着につながる。
- ・計画的にものごとに組み込む力（スケジュール管理）がつく。

→中間・期末テストのような大きな指標がなくなることから、これまでの学期末に渡っていた3回の通知表を、1学期中間、2学期中間にも配布し、年間5回としました。

3. 導入して変わったこと

- ・生徒のアンケートでは、学習する習慣が身についた、学力が向上したと感じている生徒が増えました。
- ・保護者のアンケートでも、学習する習慣が身についたという回答が増えました。

4. 今後に向けて

教科書のまとめりごとにテストを行うということは、授業をする教師もそのまとめりでどんな力をつけるかという視点が大切になります。そのため、授業自体の改善が求められます。生徒にとって、学習は「させられる」のではなく、意欲をもって「自らやる」にしていく必要があります。そのためには、「できた」「分かった」「点数が伸びた」という満足感や喜びを重ねていくことが重要だと考えています。

【全員担任制】

1. これまでの担任・副担任の課題

- ・担任が中心で、必要に応じて副担任や学年団と連携していた。
- ・生徒や保護者には、基本的に担任が対応していた。

→これらの課題を解決する手立てとして1学年では全員担任制を導入しました。

2. 全員担任制の利点

- ・多くの目で学級の一人一人の生徒を見るため、変化に気づく機会が増える。
- ・生徒・保護者が多くの先生方と人間関係を築く機会が増える。
- ・教育上の相談がチームで日常的にできるので、より安心できる教育環境を提供できる。
- ・生徒や保護者は、相談相手を選択することができる。

→学年がこれまで以上に連携し、チームで様々なことに取り組んでいます。

3. 導入して変わったこと

- ・保護者のアンケートは、多くの教員の目で生徒を見ているという安心感がある、生徒は多くの教員と触れあうことができる、生徒も保護者も状況に合わせていろいろな先生に相談できる、という意見が多く見られました。

4. 今後に向けて

引き続き、多くの教員の目で生徒を見守り、関わっていきます。また、教職員間の連携を深めるため、ホワイトボードやICTを活用し、情報がすぐに伝わるよう工夫しております。さらに、担任が中心ではなく、生徒が自分たちで学級をつくる主体性を育てていけるよう、サポートしていきます。

全員担任制については、今年度は1学年で実施しています。次年度につきましては、今年度の取組を検証し、実施の可否を判断する予定です。